

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	株式会社リブレ	事業所名	リブレ松川 看護小規模多機能型居宅介護事業所
所在地	(〒960-1242) 福島県福島市松川町美郷4丁目13番8		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・地域包括ケア施設(高齢者複合施設)内の事業所の1つとして、地域の拠点となることを目指しています。施設内には、複数のサービス事業所があり、地域貢献活動や行事等は施設全体で取り組み、かつ当事業所の特色を活かしたサービスを提供しています。
- ・家族や地域との関わりも多く、月1回のオレンジカフェ(認知症カフェ)や地域活動、施設行事等を通し、関係づくりに努めています。
- ・利用者1人1人を理解し、生活歴や得意な事、こだわりを活かしたサービス提供に努めています。
- ・看護小規模多機能の特性を活かし訪問看護と連携して高い医療ニーズに応え、特別管理加算のある11名の方を含め、利用者が安心・安全な生活が継続できるような支援に努めています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 11 月 15 日	従業者等自己評価 実施人数	(14) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日	出席人数(合計)	(_____) 人	※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員(_____ 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員(_____ 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員(_____ 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者(_____ 人) <input type="checkbox"/> 利用者(_____ 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族(_____ 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者(_____ 人) <input type="checkbox"/> その他(_____ 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>(1)毎朝のミーティングを通し、前日から夜間にかけての利用者毎の状態や対応方法について確認する。統一したケアの提供にも結び付けていく。</p>	<p>(1)毎朝のミーティング実施。状態変化があった方については、細かい情報の確認や共有を図っている。 (2)改善すべき点については、随時、カンファレンス等を実施し、改善策等を検討している。</p>	<p>(1)ミーティングやカンファレンスを通し、利用者情報等の把握や共有は、ある程度出来ている。ただし、勤務によっては、情報が上手く伝達されていないこともある。 (2)改善が出来る事は、随時、対応方法等を変更している。</p> <p>(運営推進委員より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の計画については改善されているため、より一層伝達方法を改善して欲しい。 	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<p>(1)利用者及び家族の状況変化に合わせて柔軟に対応しながら、サービス提供を行う。</p>	<p>(1)家族とも密に連絡を取り合い、利用者の状況や家族の状況変化に合わせたサービス提供に努める。</p>	<p>(1)利用者の ADL 状態の変化や家族の生活状況の変化等に合わせ、柔軟なサービスの組み換えを行い、在宅生活継続の支援に努める。</p> <p>(運営推進委員より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々人の状況に合わせて対応を医療・介護で連携してサービスを提供している。
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>(1)在宅生活が継続出来るように訪問看護、主治医とも連携や情報共有に努める。</p>	<p>(1)利用者本人、家族の意向を確認しつつ、訪問看護、主治医とも連携を密に図り、継続的かつ一体的な支援が行える体制づく</p>	<p>(1)利用者、家族の意向を確認しながら、出来る限り、望むケアの提供（看取り支援も含め）に向けて、介護・看護で協力し</p>

			くりに努めている。	ている。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	(1)地域活動への参加を行い、事業所としても地域の一員となり、「誰でも安心して暮らせるまちづくり」へ参画する。 (2)地域住民との交流を図る。	(1)リブレ松川オレンジカフェを協力して開催し、参加している。 (毎月第3土曜日)	(1)毎月の参加は出来ていないが、参加時には、職員と利用者数名で参加し、地域との交流を図っている。 (2)参加者の送迎対応等の協力は出来ている。 (運営推進委員より) ・職員が笑顔で迎えてくれていることで、地域の方も自然と笑顔になり一緒に楽しめている。 ・送迎の対応などを行っていることにより、参加を勧めやすくしている。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)		(1)利用者及び家族の出来ている事を活かしながら、在宅生活の継続や自立支援に向けたケアを提供する。 (2)介護職と看護職の連携を強化し、介護と看護の両側面からの生活支援を行う。	(1)在宅生活の継続、自立支援に向けて、介護職と看護職の連携を図る為、随時、話し合う機会を設け、利用者が望むケアの提供に努めている。	(1)受入前の担当者会議等には、介護と看護の両職種で参加するようにしている。 (2)専門的視点を含め、生活支援やサービス内容を検討し、利用者及び家族へ提案するように努めている。 (運営推進委員より) ・本人・家族、介護・医療と各連携し総合的に自立支援に向けた取り組みをしている。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・理念の唱和、毎月の職員会議等で法人一体とした統一的な研修がなされている。 ・仕事内容も情報の共有により適切なケアの実行に繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)法人理念、事業所理念を一人ひとりが理解し、専門性を向上させるための取り組みも行っていく。(施設内勉強会、OJT等) (2)介護・看護間の情報共有しながら連携を図り、お互いに介護・看護分野の領域や仕事内容の理解を深められるように努めていく。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・個々人の状況に応じたプラン作成をしている。 ・利用者、家族の意向を踏まえた支援をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)利用者、家族の意向を汲み取り、適切なアセスメント、ケアプラン作成を行い、生活支援を行う。 (2)利用者のADL状況、家族の生活状況の変化等を迅速に把握し、柔軟なサービスの組み換えを行い、生活支援を行う。そのためにも、利用者を中心に家族、主治医、事業所(介護・看護)の連携を強化していく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や他法人と連携をし、多職種連携でのサービスの提供を努められている。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)多職種間での連携を図る為、ミーティングやカンファレンスを活用する。 (2)事業所内だけでなく、地域や主治医との連携や情報の共有を図りながら、継続的かつ一体的な支援を行えるような体制づくりに努める。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流もコロナ禍でも大切にしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)オレンジカフェ等の地域活動へ参加し、地域との交流を通して、「誰でも安心して暮らせるまちづくり」へ参画する。また、地域での介護等相談の「御用聞き」となり、更なる地域貢献を目指す。

III. 結果評価 (評価項目 42～44)	・統一ケアに取り組んでいた。	(1)日頃の生活や療養の場面において、利用者・家族の意向を十分に反映させたプラン作成、かつプランに基づいたサービス提供に努める。 (2)事業所職員が統一した支援や関わりが行えるよう、対応方法を分かりやすいように明確に表示する。
---------------------------	----------------	--

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよそ でき て い る	あまりで きてい ない	全く でき て い ない		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	1	9	4	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に含まれた内容の中で一番取り組みが難しいものは何か。 ・在宅支援の体制が出来ている。 ・看取りについても体制が出来ている。 ・自立支援を基本とした取り組みがなされている。 ・重度化した人への対応も出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」 	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	1	8	5		<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通の理念を理解していることで、職員全員が同じ方向性を向くことが大事だと思う。 ・ 看護小規模多機能としての役割を認識してサービスの提供をしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	1	3	4		<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の課題である。 ・ 開所して10年中、3年はコロナ禍ということもあったが、中・長期的な具体的計画を示す時間だと思われ、4月に開所するリブレ松川Ⅱはその具体例である。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	2	7	5		<ul style="list-style-type: none"> ・継続をして欲しい。 ・内部・外部評価には代表をはじめ、管理者クラスの職員も熱心である。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	2	6	6		<ul style="list-style-type: none"> ・継続をして欲しい。 ・新入職員のレベルアップが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提	1	6	7		<ul style="list-style-type: none"> ・課題が明確になっているので、フォローするように。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	供等に反映させている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1) 毎月の職員会議にて、管理者から運営推進会議での意見・助言等の報告はある。内容によっては、すぐにサービスへ反映出来るよう、職員間でも話をしている。 (2) パート職員等、職員会議に参加しない職員からは、運営推進会議での内容がサービスに反映されているか分からないとの意見等もあった。今後、伝達方法や周知方法を課題として改善を図る。				・運営推進委員からは、毎月建設的な意見が出されていて、運営に役立っている。	を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	1	7	6		・大事な項目である。 ・理解不足の人もいるので、新人に話して面談を中間で行えたらと思う。 ・本人の意向を聞き、勤務表に活かしている。	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		員間で声を掛け合い、定時で仕事が終わることが出来るように努めている。					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	2	8	4		・ICTの活用も行い、情報の共有が図られている。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1)業務日報や申し送りノートに利用者等の情報が随時記載してあり、情報共有が図られている。 (2)毎朝のミーティングや必要に応じてカンファレンス等を開催し、情報の共有を図っている。 (3)利用者毎の担当割りの体制を取り、より早く状態変化等が把握出来るように努め、カンファレンス等で報告する形を取っている。					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保の	2	9	3		・「よくできている」と思う。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	ため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>(1)事故報告書以外にもヒヤリハット報告書を活用し、毎月のヒヤリハットの内容等を集計し、職員間で共有しながら、事故防止に繋げている。</p> <p>(2)事故発生時には、当日の勤務者で簡易的なカンファレンス等を開催し、事故防止等について話し合いを行っている。</p> <p>(3)感染症対策については、看護師を中心にして、内部研修を行い、感染防止にも努めている。</p> <p>(4)訪問時や送迎の運転について、(特に冬期間)全体朝礼においても、予後予測される天候等の確認も行い、職員への情報周知も図っている。</p> <p>(5)個人情報保護については、雇用時及び退職時に誓約書を取り交わしている。また、サービス開始時には、利用者からも個人情報保護等に関する内容を書面にて取り交わしている。実習生も同様に実施。</p>				<p>・毎月内部研修を行い、安心・安全への取り組みをしている。</p>	<p>対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	3	7	4		<ul style="list-style-type: none"> ・「よくできている」と思う。 ・定期的に施設全体で具体的に訓練を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
<p>Ⅱ サービス提供等の評価</p> <p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</p> <p>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</p> <p>① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施</p>							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を	2	5	7		<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの活用や随時訪問などで、24時間のサービス提 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1) 家族とも連絡ノートやスマケアシテムにて情報を共有し、訪問時には在宅時の様子も確認し、アセスメント等に活かしている。 (2) 泊り利用者、サ高住入居者の夜間の状況は把握出来ているが、泊り利用がない方については、24 時間の暮らし全体のアセスメントは難しい状況もあるが家族への聞き取りで状況を把握するようにしている。				供を心掛けている。	の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種間で共有されている	1	1 2	1	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1) 毎朝のミーティングやカンファレンス等、申し送りノートの活用を通して、両職種間でのカンファレンス結果の共有を図っている。 (2) 毎月、モニタリングを実施し、支援経過記録等を参考にして、介護・看護間での情報共有を図っている。	・訪問看護も常駐しており、情報の共有化がなされている。	✓ 「介護職と看護職種間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	1	8	5		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々の違いがあり、計画作成は大変だと思うが、継続して欲しい。 ・職員会議などで具体的な話し合いを行い、評価をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	1	6	7		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々の違いがあり、計画作成は大変だと思うが、継続して欲しい。 ・介護度により、その人に適した機能の向上を目指し、訪看事業所ともよく連携している。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	2	5	7		・看護師の常駐により、リスク管理には充分留意している。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1) 状態変化やリスク面を確認し、計画が作成を行っている。また、定期的（少なくとも3カ月に1回）にリスク管理表の見直しや改善に努めている。					
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	2	10	2		・アセスメントにより適宜サービスを見直しており、今後も継続して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1) 状態変化の際には、アセスメント結果を基に介護と看護間でも話し合いを行い、計画を見直し、利用者に合わせてサービス提供に努めている。 (2) 今後の予後予測も立て、情報を共有し、介護・看護の両側面の意見を基にして、ケア方法を検討している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	4	6	4		・多機能の特徴を生かした取り組みの継続をして欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	2	8	4		・多職種連携は出来ており、今後も強化して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かし	3	10	1		・役割分担がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	ながら、柔軟な役割分担が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1)介護職、看護職の専門性を活かし、業務の役割分担を行っている。(身体介護・生活援助は介護職、医療的な処置対応等は看護職) (2)職員に休みが出た場合には、介護と看護でお互いに出来る事を協力して、利用者対応に努めている。					度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	3	8	3		・ミーティング参加等により情報の共有がなされている。	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	2	8	4		・看護師が常駐することにより、各々の専門性を活かした情報の提供もある。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
		を通して、情報提供がある。(主に新規利用 受入時や状態変化時)					の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴 等について、分かりやすく 説明し、利用者等の理解を 得ている	2	10	2		・利用開始前に本人と家族へ 書面にて詳しく説明されてい る。	✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1)サービスについては、利用開始時や介護 保険改正時等、書面にて分かりやすく説明 するように努めている。また、訪問時や来 所時にも利用者から求めがあった際には、 時間を取って、ゆっくりと説明するよう努 め、理解を得られるよう対応している。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅 での療養生活の継続に向け て留意すべき点等につい て、分かりやすく説明し、利 用者等の理解を得ている	1	7	6		・家族との面談等により、分か りやすく説明している。	✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1)ケアプラン等(書面)を基に利用者本人 及び家族に対して、分かりやすい言葉での 説明に努め、理解を得られるように対応し					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		ている。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	2	7	5		・看護師との連携により、利用者・家族に対する説明を行い、その後も対応している。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1)必要に応じて、看護職から専門的な見地に基づいて、利用者本人、家族に対する説明を行っている。また、随時、医療処置や医療機器の取り扱い方法の相談等にも対応している。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	3	11				✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1)利用者、家族の意向を傾聴し、目標を決めて、ケアプランに反映し、サービス提供を行っている。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定	2	6	6			✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1)多職種を交え、在宅生活の可否の検討や今後の生活状況等の予測をし、利用者本人と家族との相談・共有に努めている。 (必要に応じて、リブレ内の他事業所の専門職への意見も求めている)					討と共有」について、充足度を評価します
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	4	6	4			✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等	1	9	4			✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価し

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1)多職種を交え、在宅生活の可否の検討や今後の生活状況等の予測をし、利用者本人と家族との相談・共有に努めている。 (必要に応じて、リブレ内の他事業所の専門職への意見も求めている)					ます ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	2	6	6		・今後特に力を入れるところである。	✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者につい	3	6	5		・今後特に力を入れるところである。	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	て、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1)多職種を交え、在宅生活の可否の検討や今後の生活状況等の予測をし、利用者本人と家族との相談・共有に努めている。 (必要に応じて、リブレ内の他事業所の専門職への意見も求めている)					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		7	7			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		7	7			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>(1) 運営推進会議の記録は、事務所内にファイリングして保管し、誰でも見ることができるようになっている。</p> <p>(2) 会議録の保管場所を把握していない職員もおり、会議でどのような話し合いがされているのかが不透明な部分もある。(全職員への周知徹底を図る)</p>					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	1	6	7			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>(1) リブレ全体として、オレンジカフェ等の地域活動、掲示板の活用、チラシ等の配布、SNSの活用を通して、リブレ全体や事業所についての情報を発信し、啓発活動等に取り組んでいる。</p>					
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		7	7			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	3	8	3		<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れについて感謝している。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	1	4	9		・相談があった後では遅いのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>(1) 実例として、ここ数年は人工呼吸器を必要とする方の相談等がなく、受入実績はなし。</p> <p>(2) 受入相談があった際には、介護職を中心にどうしたら対応出来るかを前提に考え、事業所の体力も考慮し、受入の可否を判断する。</p>					
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	4	9	1		・継続して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>(1) 介護職・看護職で情報を共有し、主治医との連携も図り、利用者及び家族が望む看取り支援を実施している。</p>					
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲		6	8		・取り組み強化をお願いしたい。	✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1) 地域包括ケアシステムについては、資料等を閲覧した職員は多いが、内容等の理解度は低いように感じる。 (2) 今後の国の基本的な方針となるものなので、職員会議や勉強会などで学ぶ機会を設けていき、理解を深めていく。					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	1	1 2	1		<ul style="list-style-type: none"> ・継続して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	1	5	8		<ul style="list-style-type: none"> ・リブレ松川ⅠとⅡで支援の差が出ない様に運営して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<p>地域住民との交流する機会を設け、地域内の諸団体とのネットワーク構築に向けての働きかけも行っている。</p> <p>(2) リブレ松川Ⅱにも地域交流室が設置してあるので、今後はリブレ松川Ⅰ・Ⅱ間の交流や地域交流を積極的に行っていききたい。</p>					<p>て得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	1	4	9		<p>・利用者家族が思う成功体験とは何か。</p> <p>・SOS 模擬訓練では協力感謝している。今後とも専門職としての対応力などを活かし参加してもらいたい。</p>	<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>(1) オレンジカフェ等へ参加し、地域での困りごとへの相談対応や介護に対する助言等を行えるよう努めている。</p> <p>(2) 松川安全安心ネットワーク委員会の活動への協力を行い、徘徊模擬訓練での認知症の方への声掛け訓練等、通報訓練等を通し、地域住民の力が底上げされる活動への参加と協力をしていく。</p> <p>(3) 利用者家族に対して、ケアの方法や関わりの中での成功体験談等を話し、在宅介護での参考等にしていただく。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>(1) 出来る限り本人の能力を最大限に活かし、時間が掛かっても自分で行えることは自分で行ってもらうなど、自立した生活を送るための目標設定を努めている。</p>	<p>・無理な目標となっていないか、目標を利用者は理解しているのか。</p>	<p>✓ 「計画目標の達成」について、評価します</p>
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p>	<p>・相手が思う気持ちなので、達成度合いはどの様に把握しているのか。</p> <p>・連絡が取れるだけで安心だと思う。</p>	<p>✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」に</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	得られている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1)緊急時等、いつでも事業所（看護師）と連絡が取れる体制が整っており、利用者及び家族の安心感に繋がっている。		ついて、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> (1)看取りについては、サービス開始時と状態変化時に家族へ意向の確認を書面にて取り交わしを行い、看取り希望の有無や家族の意向確認を行いながら、対応している。 (2)看取りを希望する場合には、家族だけでなく、職員も不安にならないように対応手順や連絡体制についての周知を図っている。	・ここでいう安心感とは何か。	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」